

令和7年5月27日

八王子市立第一小学校
保護者の皆様

増えています！SNSトラブル ～ご家庭での監督が必要です！！～

八王子市市立第一小学校
校長 角田 悟
生活指導部

例年、この時期から、市内外でSNSに関わるトラブルが急増します。

SNS等のサービスは生活に欠かせないものであり、非常に便利な道具です。その反面、使い方によっては危険も潜在しており、利用者のモラルや未成年利用者の保護者監督が必要なサービスでもあります。

各ご家庭でも、市内外で発生しているSNSトラブルについて共有していただき、お子様やご家庭が気づかない間に、加害・被害にならないよう、各ご家庭において一層の指導・監督を行っていただきますようお願いいたします。

I 市内外で発生したSNS等の被害例

(1) SNS ((例) LINE、Facebook、Instagram、YouTube、TikTok、X 等)

- ① 中学年の児童が、友達の顔写真とともにからかう歌を投稿し、全世界に発信し、その後民事裁判まで発展してしまった。
- ② LINE 使い始めの児童が、友達同士のグループを作り、不用意な連絡や着信を繰り返し家庭間でトラブルに発展した。
- ③ LINE による仲間外れが発生し、その後情報を聞いた被害児童が学校に登校できなくなってしまい、いじめの重大事態に発展した。
- ④ 子どもが投稿者に対し、人格を罵倒する書き込みを行い、保護者が法的責任(監督義務、民事)を負うこととなった。
- ⑤ 子どもが保護者の SNS アカウントで不用意な書き込みを行い保護者に責任が生じることになった。年齢制限のあるアプリで子どもが年齢を偽り、アカウントをつくり、不用意な書き込みを行ったことで保護者の監督責任が生じた。

(2) オンラインゲーム ((例) 『フォートナイト』などのバトルロイヤル系ゲーム 等)

- ① 子どもが10万円以上の課金をしてしまった。(親が入力したパスワードを覚えていた。)
- ② ゲーム中の「黙れよ」「うぜー」「死ね」「殺す」など罵倒する言葉が原因で、その後家庭や学校を巻き込んだトラブルに発展した。

2 ご家庭でご確認いただく事項

(1) 利用アプリの利用年齢制限の確認

大人が SNS（オンラインゲームを含む）のサービスで何ができるのか、機能や利用規約を理解しておく。

特に利用者が未成年者である場合は、親権者等の法定代理人の同意を得たうえでサービスを利用すること、利用者自身の責任においてサービスを利用すること、利用の結果利害関係が生じた場合には、監督者である保護者が民事・刑事上の責任を負うことなどを大人がまず確認しておくことが大切です。

SNS 名	利用を禁じている年齢
LINE	なし（18 歳未満は利用できない機能がある） ※年齢、本人確認の有無、登録情報の有無、その他、会社が必要と判断する条件を満たした利用者に限定して提供
Facebook	13 歳未満
Instagram	13 歳未満
X(Twitter)	13 歳未満
YouTube	13 歳未満（親または保護者の許可があれば、13 歳未満の子どもは利用できる）
TikTok	13 歳未満 ※ダイレクトメッセージの送受信、他のユーザーに自分の動画のダウンロードの許可、自分の動画とのリミックスおよびデュエットの許可は 16 歳以上

★オンラインゲーム（フォートナイト）

- ・利用は 13 歳以上。
- ・13～17 歳の場合は親権者または法的保護者の許可を得る必要あり。

(2) 家庭での指導のポイント

- ① 子どもが利用している SNS 等の利用規約を確認し、重要な部分は子どもに説明する。
（利用規約は長く難しいので、子どもが自分で熟読することはないものと考えておく。）
- ② 年齢制限に満たない SNS やオンラインゲームの利用については、監督者である**保護者が民事・刑事上の責任を負う**ことを子どもに理解させたうえで、利用のルールや、定期的な内容の把握を行う。
- ③ SNS 等によって子どもにどんなリスクが降りかかるのか、大人が子どもと一緒にニュース（具体的な事例）を見たり、話し合ったりする機会を持つ
- ④ 大人がペアレンタルコントロールやフィルタリングを設定し、子どもが利用できる SNS やアプリを制限する。
- ⑤ SNS 等のトラブルが起きた時や起こりそうな時、子どもが大人に相談できるような信頼関係をつくっておく。
- ⑥ 子ども間の SNS 等の利用で、危険の可能性を感じたときは、監督者としてためらわず、（むしろ良心です。）相手のご家庭に情報提供することで双方のご家庭の事故防止に努める。
- ⑦ いじめに発展しうるような場合は学校にご連絡をお願いします。

SNSに係るトラブルの事例



えっ!?これかいじめなの?
ふざけただけだったのに・・・

【事例A】インターネット上のいじめ

女子児童は、不登校の児童に対し、SNSで「学校おいで」と誘った。一方で、他のクラスの仲間に「調子に乗っている」と、不登校の児童を笑いものにした。



誰も分かってくれない!
ゲームだけが救い・・・

【事例B】オンラインゲーム依存

男子生徒は、インターネットをやっていないと落ち着かない。家族との会話も減った。自殺願望も出てきている。最近、自分の何もかもが壊れていくように感じる。

そもそも私が送らなければよかった・・・



【事例C】裸の画像の送信

43歳の男は、女子生徒が配信していた動画を見て、女子生徒にコメントを送り、裸の映像を送るよう仕向けた。女子生徒は、裸の画像を送信してしまった。



ゲームを有利に進めたかった。
親は分かってないから
やめられなかった・・・

【事例D】インターネットでの課金

男子児童は、ゲーム機からソフトをダウンロードできることを知り、親に無断でクレジットカードを使用した。その後、ゲームソフト代金24万円を請求された。

もう、眠い。
でも、聞き逃すと仲間はず
れになるから・・・



【事例E】インターネット依存

女子生徒は、SNS上での仲の良い友達と、毎日夜中でも会話をしている。相手のことが気になるので、SNSを見て安心している。保護者から注意をされているが、やめられない。

おもしろそうだったし、簡単に
できたから、ついやってしまった・・・



【事例F】インターネットを介した犯罪

男子生徒は、生徒間で気軽に大麻を売買していた。インターネットでガラスパイプを購入し、同級生等から大麻を買うようになった。SNSで、「1個まいい」と伝えると、公園などで受け取った。

なんでそんなことを
知らない人たちに送るの!?

みんな、やってるって言うけど、
みんなって誰なの?

こんなことになるなんて



そんなことをするためにスマホを
買ってあげたんじゃない!!



最終面をご覧ください。➡